

セミの生態に興味津々

まんのうで教室 抜け殻使い 標本作り

セミの抜け殻を分解する親子連れ
まんのう町中通、こども未来館



加者はルーペとピンセットを使って、触角や頭、羽などを丁寧に分解。触角の節の数などで種類が見分けられることや、樹液を吸うストローのような「口吻」と呼ばれる部位について教わると、興味津々の様子で聞き入っていた。

生物部に所属する大手前高松中2年の田村茉織さん(13)は「鳴き声だけでなく、体の構造で種類が見分けられることを知って勉強になった」と話していた。

まんのう町中通のことなみ未来館で16日、「セミの抜け殻教室」が開かれた。参加した親子連れは、セミに関するクイズや抜け殻を使った標本作りを通じて、身近な昆虫の生態に理解を深めた。

夏休み中の子どもたちに生き物や自然に親しんでも

らおうとNPO法人みんなでつくる自然史博物館・香川(同町)が企画。研究員の松本慶一さんが講師を務め、県内の約20人が参加した。

冒頭で松本さんがセミの生態に関するクイズを出題。セミは集団で鳴く種類と単体で鳴く種類があり、音はおなかにある器官で聞き取ることや、木の葉そっくりの緑色のセミがいることなどを紹介した。

続いて、実物の抜け殻を使った標本作りに挑戦。参